

[課程一 2]

審査の結果の要旨

氏名 大久保 豪

本研究は成人先天性ろう者の人工内耳装用に関する関心・希望の有無、その理由を明らかにするため、人工内耳を装用していない成人先天性ろう者（非装用者インフォーマント）30名と人工内耳を装用した成人先天性ろう者（装用者インフォーマント）2名に対する面接調査を行ったものであり、下記の結果を得ている。

1. 非装用者インフォーマントのうち、《体内へ機械を埋め込むことへの抵抗》、《きこえないことが当たり前という感覚》、《補聴器の使用による不快感》、《手話での意思疎通に対する満足》、《視覚的な通信技術の発達》を感じる者は装用に関心を持っていなかった。
2. 《きこえることへの関心》、《危機管理のための聴力の活用》、《音声言語による意思疎通の希求》を感じる者は装用に関心を持っていた。ただし、これらのインフォーマントも《装用効果が低い可能性の認識》、《友人ろう者との関係悪化への恐れ》という理由から装用を希望してはいなかった。
3. 装用者インフォーマントは装用効果が低い可能性や《友人ろう者との関係悪化への恐れ》を重視しておらず、《音声言語による意思疎通の希求》を強く感じるが故に装用を決定していたこと、《手話で意思疎通ができる対象の限界》を感じるがゆえに《手話での意思疎通に対する満足》が高くないことが明らかになった。
4. 成人先天性ろう者の人工内耳装用の関心・希望の理解には、そのろう者のきこえないことに対する価値観や言語に対する満足度、そして言語に対する満足度に影響を与える言語環境についての理解が不可欠である。また、先天性ろう者が人工内耳についての正しい情報を得られるような環境作りが急務である。

以上、本論文は成人先天性ろう者の人工内耳装用に対する関心・希望には、使用している言語に対する満足度が関連しており、その満足度は言語環境によって変わることを明らかにした。本研究は先天性ろう者にとって望ましい人工内耳医療のあり方を考える上で貴重な資料となる事が期待でき、学位の授与に値するものと考えられる。